

庭のオニドコロの葉に、小さな折り返しが作られているのに、気がつきました。

黒い翅に白い紋のある小さな蝶、大名セセリの幼虫の作った巣です。そういえば6月の初め頃、大名セセリが飛んできたので、夏が来たなあと思ったものです。

卵からかえった幼虫は、ヤマノイモ科の葉を食べて育ちますが、葉の縁を折り返してテントを作り、縁を糸で止めて、その中に住んでいるのです。成長するにつれて、身体に合わせてテントを新しく作ります。

よく見ると、小さいのや、中くらいのも、その辺りのオニドコロの葉には幼虫の食べ跡と、住居址が残っていました。

それから、毎日何回も見に行きます。でもいつ見ても、幼虫は出ていません。雨の朝はテントに雫がついていました。こもっているようです。

晴れたら出てくるかな、と、このところ気にしているのですが、爽やかな日も出てきません。かがった糸の隙間から覗くと、屋根にあたるテントの裏にくっついて、黒い頭の白い幼虫が見えます。いつ出てくるのだろう。

ある日、とうとう目撃しました。テントの隣の葉に幼虫がいました。近くには、幼虫を狩る蜂が飛んでいます。

私は大急ぎで、カメラを取りに入りました。ほんの数秒だったのに、幼虫は虫とも思えないスピードで、テントに戻って行きます。糸の隙間からスルッとテントに入りました。カメラにはその下半身がろうじて写っただけでした。

テントにもぐりこんだ幼虫は、クルリと向きを変えて屋根にくっつき、いつもの姿勢になっていました。

ほんの数秒の、幸運な初めての出会いでした。



テントに逃げ込む幼虫